

9月 ほけんだより

平成24年 第142号



救急時の対応

全国の1～14歳の子どもの死因の第一位は、^{ふりよ}不慮の事故です（平成20年厚生労働省「人口動態調査」より）。0歳児でも、ほぼ同数からそれ以上の数の事故による死亡が報告されており、子どもを持つ家庭では、事故に対する認識を高く持ち、正しい知識を得ることがとても大切です。

0～4歳児では、**家庭内で起こる事故**による死亡が、交通事故死よりも多いのが特徴です。

家庭内事故死の原因は、

- | | | | | | |
|-------|---|------------|-----------|--------------|-----------|
| 0歳児 | … | ①窒息 (83%) | ②溺死 (10%) | ③転倒・転落 (2%) | |
| 1～4歳児 | … | ①②窒息 (33%) | 溺死 (33%) | ③転倒・転落 (16%) | ④火災 (10%) |

成長とともに原因が多様化してきます。年齢が上がり、行動範囲が広がって外に出て行く機会が多くなるに連れ、交通事故の占める割合が大きくなってきます。

気道異物による窒息

気道に食物などがつまり息ができなくなる、気道異物による窒息は、3歳未満の乳幼児に多く（全体の約8割）、ピーナッツや玩具（おもちゃの小さい部品など）が原因となることが多く、死に至ることもあります。

1 大切なことは窒息を予防することです。

- ① とにかく子どもの手の届く範囲内に危険なものを置かない。
- ② 口の中に物を入れているときは落ち着いて座って食べさせる。



2 窒息に気がついたら、^{はいぶこうだほう}背部叩打法や、^{はいぶくさげほう}腹部突き上げ法などを行って、異物を除去しますが、^{しんぱいそせい}反応（意識）がなくなった場合は、119番通報を行い、心肺蘇生の手順を開始します。

背部叩打法

下向きになるように手で支えて背中をたたく



腹部突き上げ法（ハイムリック法）

※1歳未満の乳児には行わない

子どもを後ろから抱きかかえ、おへその少し上に親指側を向け、握りこぶしをあてる。

あてた握りこぶしを、上から包み込むように、もう一方の手でしっかりと握り、すばやく手前上方に突き上げる。

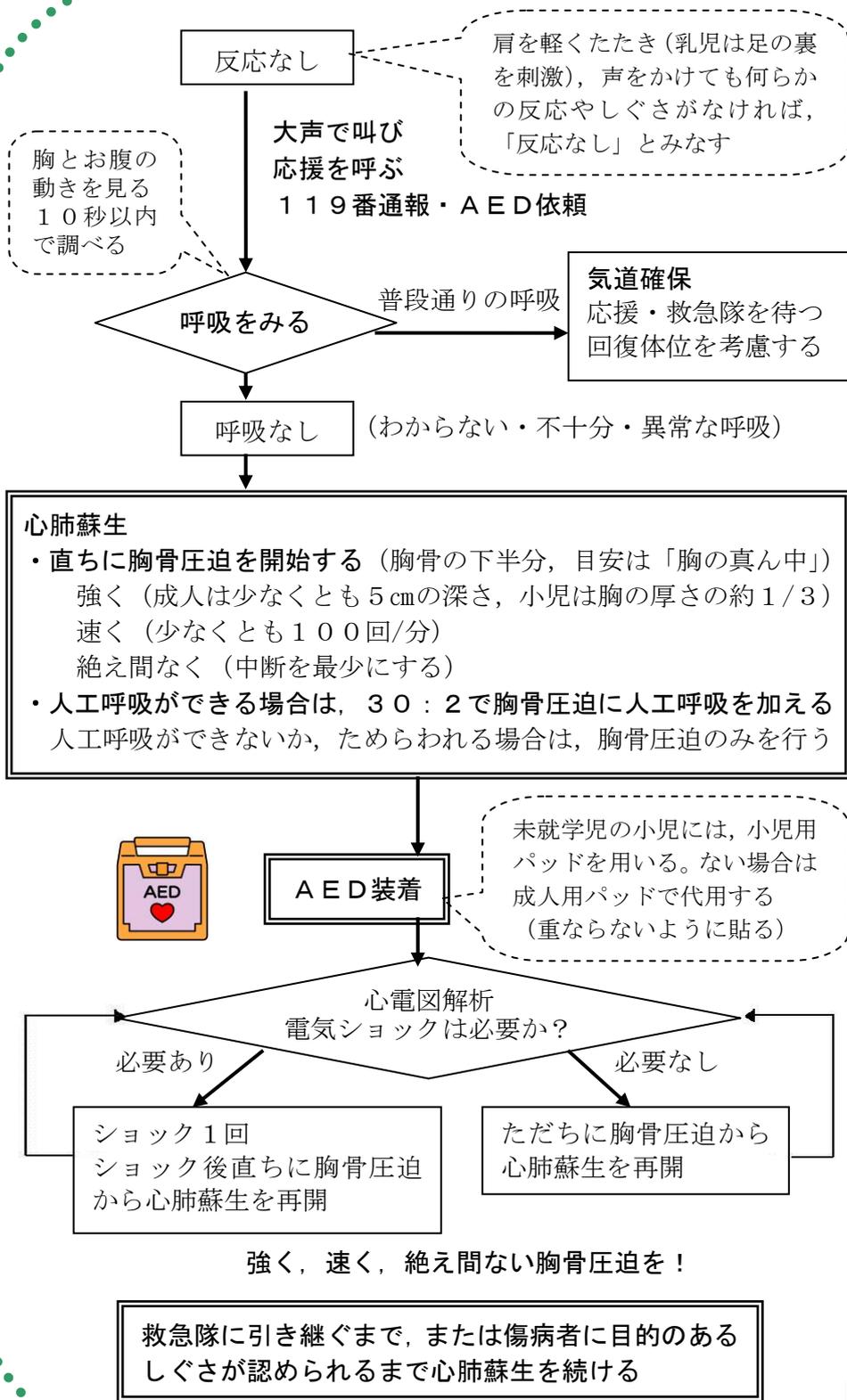


子どもの救急蘇生

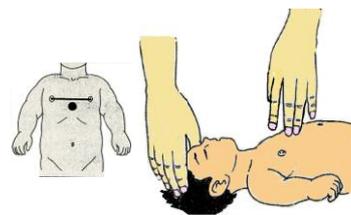
救急車の平均到着時間は7.9分といわれています。心臓が止まってから、1分ごとに救命率は7～10%下がります。その間に私達にできることがあります。

覚えましょう！ まずは私達の大切な人のために。

新しい心肺蘇生法 救急蘇生法の指針が2010年に改訂されました。



※乳児は乳頭線のやや足側を片手の2本指で圧迫



**強く！ 速く！
絶え間なく！**



参照：救急蘇生法の指針(市民用)
救急蘇生法の指針(医療従事者用)

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>